

第 31 号

2024年3月25日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局)〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル9F(株)毎日学術フォーラム内

一般社団法人日本看護系学会協議会

TEL: 03-6267-4550 FAX: 03-6267-4555

E-mail: maf-jana@mynavi.jp

Nurse one patient, think the planet!



一般社団法人 日本看護系学会協議会

会長 上別府 圭子

令和6年能登半島地震で被災された皆様や、災害の影響を受けていらっしゃる皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、ご自身も被災されながら看護・支援の任に就かれていらっしゃる皆様、日本各地から被災地に入り支援活動に携わっていらっしゃる医療看護職の皆様に、敬意を表します。

1月1日午後4時10分発災の約12時間後である1月2日早朝4時には、日本災害看護学会の先遣隊は、福井県丸岡ICに集合して活動を始めたということです。このような超急性期では、区長による安否確認もままならず、午後からは自衛隊・警察・緊急援助隊などの訪問による安否確認が始まったとのこと。夜には石川県保健医療福祉調整本部に、被災者の健康状態や今後予測される課題などを共有、2023年5月にも令和5年奥能登地震で協働した経験があったため、活動調整はスムーズだったということです¹⁾。1月4日には同じく保健医療福祉調整本部に、看護師を含むDMATのロジスティックチームが²⁾、また同4日、石川県輪島市には、日赤災害医療コーディネーターである医師と看護師が入りました³⁾。石川県看護協会は1月5日から災害支援ナースの県内派遣を開始し、1月6日には日本看護協会による災害支援ナースの全国派遣が開始されています。日本看護協会は、2月29日までの期間に、県外からの災害支援ナースを延べ2,982人派遣したそうです⁴⁾。災害支援では多職種が活躍していますが、日頃より人を“生活者”としてアセスメントし看護している看護職は、災害の超急性期・急性期・亜急性期にも素晴らしい力を発揮していたと思います。海底の隆起・道路の亀裂などの地形学的特徴、あるいは高齢者の独居世帯が多いなどの人口学的特徴から、令和6年能登半島地震からの復興には長期間

が必要と見込まれますが、今後も看護職はさまざまな形で関わり続けることになります。

WHOによると、少なくとも世界の140か国において、健康は国民の権利であることが憲法に謳われています。しかし一方で、法律を実行して国民が保健医療へアクセスする権利を保障している国はほとんどないのが現状だということです。このような課題を取り上げるために、2024年の世界保健デーのテーマを、“My health, my right”にしたとのこと⁵⁾。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は2年を経過しても終結する気配すらありません。パレスチナ・ガザ地区での戦闘も長引いています。そういった紛争の地域では、言うまでもなく平常な生活は破壊され、死や飢えや心身の、いや正にバイオサイコソーシャルスピリチュアルな痛みによって、健康の権利が脅かされています。日本は周産期死亡率も低く、保健医療の整った国と考えられており、紛争もないわけですが、でも地震などの被災地ではどうでしょうか？安全な水を飲み、清潔な空気を吸い、良質な栄養を摂り、質の良い住居で休み、適正な環境条件で働き、差別を受けない権利、そして適切な保健医療にアクセスする権利が保障されているのでしょうか。そう考えたとき、背筋が寒くなりました。災害の超急性期・急性期には何一つ保障されていなかった。被災者が“権利”を行使できるように、他職種と連携しながら一つ一つ条件を整えていくことが看護職の仕事の一つだったのです。

アメリカのNational Institute of Nursing Research (NINR)のDirector's Lectureの中での、Dr. Julie Postmaによる気候変動と健康に関する話題提供にも衝撃を受けました⁶⁾。アメリカでは近年の猛暑で山火事が多発し、その煙を吸うことで、農場労働者に健康問題が生じているそうです。そこ

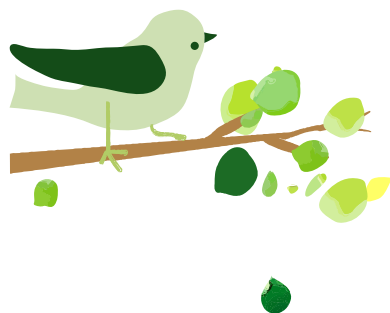
でどうしたらよいかという課題なのですが、その計画もさることながら、気候変動から派生した課題に看護学研究者が熱心に取り組んでいて、そこにアメリカ国立衛生研究所 (NIH) が研究助成金を出しているということにある種の感動を覚えたのでした。日本で言えば、昨夏のような猛暑下での健康問題の研究も必要ですが、やはり地震大国日本としては“災害看護”がこれに当たるのではないかと思います。

令和6年能登半島地震に関してJANAでは情報支援のために、前期にリニューアルしたポータルサイトを提供しようと考え、さっそくホームページに「能登半島地震に関する活動はこちら」というバナーを新設しました。そして社員学会の皆様から情報提供していただき、各学会の取り組みについて情報をまとめました。また、有志による支援者向け基本情報のe-learning教材も、どなたでもご覧になれるようにしてあります。今後も災害看護に関する有用な情報が、JANAのポータルサイトを開けば見られる環境を保つことができますように、新しい情報や成果に関しましてご連絡をいただけますと幸いです。

一人ひとりの被災者の方を適切に看護することが大切です。その過程で得られた知見を蓄積し発信していくことで、地球上の別の場所で自然災害が起きた時にもヒントにしていだける可能性が生まれます。そんな希望を込め

て、この文章にタイトルを付けてみました。引き続き社員学会の皆様のご協力を賜れますよう、よろしくお願いいたします。

- 1) 日本災害看護学会 令和6年能登半島地震 先遣隊活動報告. <https://www.jsdn.gr.jp/4261> (2024.3.12 accessed 以下同)
- 2) 千葉県 令和6年能登半島地震に係る災害派遣医療チーム (DMAT) の派遣について. <https://www.pref.chiba.lg.jp/iryuu/press/2023/notohanntouhaken.html>
- 3) 日本赤十字社 和歌山医療センター 令和6年 能登半島地震に医師・看護師らを派遣. https://www.wakayama-med.jrc.or.jp/topics/noto_releaf.html
- 4) 公益財団法人 日本看護協会 令和6年能登半島地震 関連情報. <https://www.nurse.or.jp/nursing/kikikanri/noto2024/index.html>
- 5) World Health Organization World Health Day 2024; My Health, my right. <https://www.who.int/news-room/events/detail/2024/04/07/default-calendar/world-health-day-2024-my-health-my-right>
- 6) NINR Director's Lecture - Climate Change and Health, March 6, 2024. <https://www.youtube.com/watch?v=QTPZ13FGL5E>



看護学という学術のあり方を議論します



日本学術会議・学協会との連携委員会委員長

西村 ユ ミ

本委員会は、「本法人と日本学術会議・学協会との連携および協働を推進し、学術としての看護学の発展に寄与する」ことを目的としています。

2023年度は、日本学術会議が問題提起をしている日本の学術の危機（自由な発想による学術の推進が難しくなること等）に対し、看護学から提案するシンポジウム（＝日本看護科学学会（JANS）第43回学術集会・日本看護系学会協議会（JANA）共同企画シンポジウム）を企画しました。テーマは、「看護学から学術の危機と展開を考える」であり、JANS第43回学術集会会期中の2023年12月10日に開催しました。座長は、日本看護系学会協議会理事の酒井郁子と西村ユミです。JANAを含む看護系学協会から推薦された3名が登壇し、発表および議論を行いました。

一般社団法人日本看護系学会協議会（JANA）からは山川みやえ氏が登壇し、「学術としての看護学——その深化と国民の健康への実践的寄与」について報告しました。公益社団法人日本看護科学学会（JANS）からは、吉沢豊予子氏が登壇し、「看護学のオープンサイエンス化の促進と研究者と非研究者のパートナーシップから作り出す看護学」について、日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会からは、神原咲子氏が登壇し、「Society 5.0時代の人々・コミュニティに求められる看護の学術と実践とは」について報告しました。

本シンポジウムでは、未来志向で、看護学という学術がいかにあるべきかが議論されました。会場との質疑応答では、本当の意味で国民に影響を与える学術とは、実践の成果が国民にいかに見えるか、これから（未来）の看護が

どうあるべきか、国際的エビデンスを構築するためにAll Japanで取り組む研究とするためには、日本文化を活かした多職種共同研究の必要性、看護学が他の学術と繋がり世界に向けて発信できるようになること等々について、意見交換が行われました。本シンポジウムは、看護学の「これまで」と「これから」（新たなフェーズ）の結節点に位置づけられる機会であったと考えます。シンポジウム参加者は、30～40名であり、オンデマンド配信も行われました。発表原稿は、JANAのHP（<https://www.jana-office.com/event/symposium/2024/02/21/3146/>）で公開しています。

日本学術会議の動きとしては、2023年10月より、第26期の活動が開始されました。JANAは引き続き、日本学術会議の看護学分野の分科会と連携・共同してシンポジウムなどを企画し、またその活動を支援する予定です。なお、第26期の看護学分野が関わる分科会は、健康・生活科学委員会内の2つの分科会「ヘルスケア人材の共創に向けた看護学分科会」、及び「共生社会に向けたケアサイエンス分科会」です。今期は、審議事項を焦点化した分科会名称となっています。なお、「ヘルスケア人材の共創に向けた看護学分科会」、及び「共生社会に向けたケアサイエンス分科会」ともに第1回会議を開催し、今期の活動について検討しました。今後、日本学術会議のHP（<https://www.scj.go.jp/>）に議事録等を掲載する予定です。

社員学会の皆様へは、引き続き、日本学術会議の活動について情報共有をいたします。また、学術についての多くの課題、及び看護学の発展についての議論を、社員学会の皆様と行っていきたいと考えています。



「論文執筆ハンドブック ver.1.0」の 利用状況報告



研究倫理推進委員会委員長

前田 ひとみ

本委員会では、2021年3月に「論文執筆ハンドブック ver.1.0」を公開しました。皆様ご覧になったでしょうか。今回は各学会を対象にした利用状況調査（2022年10月末締切）の集計についてご報告いたします。

回答の回収数は32学会（回収率68.1%）でした。

ハンドブックの活用方法については、表1に示す通りであり、「学会の編集委員会でのハンドブックの共有」は25学会（78.1%）で行われていました。しかし、学会のホームページでの掲載やセミナーでの説明などは行われておらず、残念ながらあまり活用されていないことがわかりました。中には、この調査が来てから、改めて見たという回答もあったことから、公開するだけでなく、その後のフォローが重要であることが示されました。

その他の意見としては、「各項目がどのような基準やガイドラインに基づいて説明されているか不明な点があるので、本文中に出典を付したほうが良い。」「サブタイトルに「不適切な行為を避けるために」とあるが、「看護研究者の公正な研究成果の発表のために」などのように、看護研究者対象に研究公正に関して説明されている冊子である

ことが、ひと目で分かるような表現の方がいい。」「ゴーストオーサーの部分で例示されている内容にも関連するため、利益相反の明記（報告）に関する内容も含んだ方がよい。」「不適切な行為の説明について、「なぜそれが不適切なのかの説明」を冒頭で示し、その後に「不適切な行為の例の紹介」や、「不適切な行為にならないためにはどうしたらいいかの説明」といった流れで書かれていると理解しやすいのではないか。」といったコメントもいただきました。改訂版の参考にさせていただきます。

また、「倫理委員会の承認の必要性やインフォームドコンセントの程度などについて編集委員会内で意見が割れることがある（例：医療者を対象とした健康情報を扱わない研究も倫理委員会は必須か、学生を対象とした研究でインフォームドコンセントは取られているが強制力がかかっていないかなど）。」という意見もありました。人を対象とする研究倫理指針も度々改正されることから、本委員会では各学会の倫理規定について調査する予定にしております。その節はご協力いただきますよう、何卒よろしく願いたします。

表1 「論文執筆ハンドブック ver.1.0」の利用状況

調査項目	学会 (%)
各学会の編集委員会でのハンドブックの共有	25 (78.1)
学会のホームページに掲載した/リンクを貼った	1 (3.1)
会員対象セミナーで説明した	3 (9.4)
投稿チェックリストにハンドブックを読んでいることを追記した	1 (3.1)
査読要領にハンドブックの内容を追記した	0 (0)

広報します！ JANAの活動を



広報委員会委員長

佐藤 正美

みなさん、日本看護系学会協議会（JANA）ではどのような活動をしているのか、ご存知でしょうか。それらの情報は、何を通して皆さんは知るのでしょうか。PC画面から検索エンジンを開けば、アルゴリズムによって自分にとって興味ある情報が飛び込んできます。新商品の情報は今やCMやDMではなく、LINEやYouTube、Instagramから送られて来ることが極めて多くなりました。年会費を納入して会員となっている学会の活動は身近であり、自ら情報源へアクセスすることでしょう。しかし、JANAは看護系学会49学会（2024年3月現在）を社員とした協議会のため活動が見えにくく、改めてJANAのWebサイトへアクセスして情報収集することは少ないのではないのでしょうか。

JANAは「看護学の学術的発展をめざす看護系学会の相互交流と連携をはかり、看護学研究成果を社会に還元する学会活動を支援し、また看護学学術団体の立場から、人々の健康と生活の質の向上のため国や社会に向かって必要な提言を行う。」活動をしています。すなわち、①社員学会の相互交流と連携、②研究成果を社会へ還元する支援、③国や社会への提言、の大きく3つの活動があります。これらの活動を進めるために情報発信は大変重要であり、Webサイトの充実を含め広報委員会は重要な役割を担っています。

ところで、みなさんJANAのWebサイト（<https://www.jana-office.com/>）へアクセスしたことはありますか。およ

そ1年前に装いを新たにリニューアルしました。上記の3つの活動を促進していけるよう、さらに、わかりやすい情報発信サイトにしていきます。「看護系学会のことなら、まずはJANAのサイトを見てみよう！」とアクセスしてもらえるようなWebサイトにしていきます。なお、Webサイトには「社員学会専用ページ」の入り口が設けられています。パスワードを入力して入ることができ、社員学会の相互交流と連携をめざして設置されましたが、まだ活用には至っていません。ご意見やアイデアをお持ちの方、ぜひともJANAの事務局までご連絡ください。また、現在のWebサイトでは、過去取り組んできたJANAの活動を記す記録や作成した資料など、整理ができていないため公開できていません。2024年度中にはそれらの資料を整理し、アーカイブ化を進めていきますので、もう少々お待ちください。

最後にお願いがあります。みなさんの学会での学術集会、研修会の案内など、掲載希望の記事がありましたら、事務局までメールで【HPへの会員情報の掲載希望】としてお送りください。また、[社員学会や関連学協会が所有するプロダクツ]がありましたら、ぜひWebサイトへ公開しますので、事務局までメールで【所有するプロダクツの掲載希望】としてお送りください。さらに、令和6年能登半島地震に関する活動に関して新しい情報や成果などありましたら、同様に事務局までご連絡をいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



〈社員学会紹介〉 日本NP学会（JSNP：Japan Society of Nurse Practitioner）

理事長 福永 ヒトミ

2021年に、第48番目の社員として加入を認めていただきました、日本NP学会です。日本NP学会は、一般社団法人日本NP教育大学院協議会の認定した、診療看護師（NP）の実践・教育・研究活動を通して、人々の生活と健康に寄与することを目的に活動しております。

学術集会の開催、学術誌（フリーアクセスできるインターネットジャーナル）の刊行、診療看護師（NP）に対する理解促進等に向けた活動を主な事業として取り組んでいます。

2015年に設立した学会で、現在の会員数は、879人ですが、資格を取得した診療看護師（NP）が年々増加し、その多くが会員となっておりますので会員数は右肩上がり

増加しております。医師などの多職種も会員となり、役員も務めているのが本会の特徴です。全国を7つの地方会に分け、地方会ごとの研究会なども定期的開催し、会員同士の情報交換の場を作り、学会、会員にとって効果的に機能しております。学会活動を通して、診療看護師（NP）実践活動に関するエビデンスを集積し、それを社会に伝えていくことを目指して会員一同頑張っております。学会としてのガバナンス強化の課題が残されていますので、先輩社員の皆様の歩みを参考にさせていただきながら、少しでも日本の医療、看護分野の発展に寄与できるよう、学会としても尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



日本NP学会ウェブサイト

【役員】

会長

上別府 圭子

副会長

酒井 郁子（APN制度推進委員会）

理事

安達 久美子（総務委員会）

池田 真理（将来構想プロジェクト）

井上 智子（公的研究費拡大推進委員会）

佐々木 幾美（災害看護連携委員会）

佐藤 正美（広報委員会）

田高 悦子（看護ケアガイドライン普及推進委員会）

西村 ユミ（日本学術会議・学協会との連携委員会）

別府 千恵（医療安全推進委員会）

前田 ひとみ（研究倫理推進委員会）

山川 みやえ（総務委員会）

監事

浅野 みどり

太田 喜久子

—編集後記—

皆さん、新年度の準備に追われている時期かと思います。令和6年能登半島地震で被災した地域の皆様、断水や通行止めなど復旧が進まず日常が戻らない生活を送ることは、どれほど大変なことでしょう。今年度より委員会組織で活動を始動したJANAとしても、社員学会を支援し活発に活動してまいります。

さて、JANAとしての情報発信の一つがこのニュースレターですが、どのくらいの皆様にご覧いただけているのでしょうか。少しでも関心を寄せていただけるよう、今回からカラーでお届けいたします。情報発信の手段は激変しました。気づかぬうちに検索履歴からアルゴリズムによって、勝手に情報が迫るように飛んできます。そんな中でも、JANAの活動について興味を持って皆様へお伝えできるよう、Webサイトを含め、このニュースレターやニュースレター速報をさらに工夫して、広報活動をしてまいります。ご意見やご提案がございましたら、ぜひとも事務局までお寄せください。

（広報委員会委員長 佐藤正美）

社員学会一覧

2024年3月末現在

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	宛先(担当者)	
1 公益社団法人 日本看護科学学会	吉沢豊予子	101-0041	東京都千代田区神田須田町1-5-14 ダイヤモンドビル6階	03-3525-8428	03-3525-8429	office@jans.or.jp	吉川	https://www.jans.or.jp/
2 一般社団法人 聖路加看護学会	片岡弥恵子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内	03-3543-6391	03-5565-1626	slnr@slcn.ac.jp	梅崎	https://slnr.or.jp/
3 一般社団法人 日本がん看護学会	鈴木 久美	550-0001	大阪府大阪市西区土佐堀1丁目1番23号 コウタイ肥後橋ビル3階D号室 日本がん看護学会事務局		06-6447-2877	info@jscn.or.jp	山本 麻理	http://jscn.or.jp/
4 一般社団法人 日本看護学教育学会	大島 弓子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jane@mynavi.jp	戸塚	http://jane-ns.or.jp/
5 一般社団法人 日本看護管理学会	武村 雪絵	150-0013	東京都渋谷区恵比寿3-29-17 サンティールビル201号室 一般社団法人日本看護管理学会 管理事務所	03-6721-6803	03-6721-6823	kaikei@janap.jp	武村 雪絵	https://janap.jp/
6 一般社団法人 日本看護研究学会	浅野みどり	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 ㈱ガリレオ学会業務情報化センター内	03-3982-2030	03-5981-9852	g027jsnr-mng@ml.gakkai.ne.jp	竹下 清日	https://www.jsnr.or.jp/
7 一般社団法人 日本救急看護学会	山勢 博彰	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内	03-3384-8030	03-3380-8627	jaen@herusu-shuppan.co.jp	仲澤	https://jaen.jp/
8 一般社団法人 日本クリティカルケア 看護学会	宇都宮明美	162-0833	東京都新宿区笹岡町43 新神楽坂ビル2階	03-5946-8847	03-5229-6889	jaccn@supportoffice.jp	水嶋 弘江	https://www.jaccn.jp/
9 一般社団法人 日本公衆衛生看護学会	岡本 玲子	602-8048	京都市上京区下立売通小川東入西大路 町146番地 中西印刷㈱内	075-415-3661	075-415-3662	somukai-jimu@japhn.jp	国料 尚子	https://japhn.jp/
10 一般社団法人 日本小児看護学会	野間口千香穂	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jschn@mynavi.jp	今野 優	https://jschn.or.jp/
11 一般社団法人 日本助産学会	片岡弥恵子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jam@mynavi.jp	今野 優	https://www.jyosan.jp/
12 一般社団法人 日本精神保健看護学会	寺岡征太郎	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-japmhn@mynavi.jp	齊藤	https://www.japmhn.jp/
13 一般社団法人 日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会	紺家千津子	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F ㈱春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局	03-5291-6231	03-5291-2176	etwoc@shunkosha.com	伊津野	http://www.jwocm.org/
14 一般社団法人 日本地域看護学会	麻原きよみ	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 ㈱ワールドプランニング内 日本地域看護学会事務局	03-5206-7431	03-5206-7757	office@jachn.net	折田 幸駿	http://jachn.umin.jp/
15 一般社団法人 日本糖尿病教育・ 看護学会	瀬戸奈津子	170-0002	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 ㈱ガリレオ学会業務情報化センター内	03-5981-9824	03-5981-9852	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	宮本 遥	https://jaden1996.com/index.html
16 一般社団法人 日本母性看護学会	石井 邦子	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 ㈱ガリレオ学会業務情報化センター内 一般社団法人日本母性看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g031jsmn-mng@ml.gakkai.ne.jp	福島 裕子 常田 裕子	http://bosei.org/
17 一般社団法人 日本循環器看護学会	眞嶋 朋子	112-0012	東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F 一般社団法人学会支援機構内	03-5981-6011	03-5981-6012	jacn@asas-mail.jp	大川 千尋	http://www.jacn.jp/
18 高知女子大学看護学会	野嶋佐由美	781-8515	高知県高知市池2751-1 高知女子大学看護学会係	088-847-5524	088-847-5524	kwuaonaddress@cc.u-kochi.ac.jp	畦地 博子	https://www.u-kochi.ac.jp/~nsgakkai/index.html
19 千葉看護学会	増島麻里子	260-8672	千葉県千葉市中央区支鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科内	043-226-2426	043-226-2407	cans-adm@umin.ac.jp a-nakazuru@chiba-u.jp	増島麻里子	http://www.cans-net.jp/
20 日本アディクション 看護学会	松下 年子	244-0806	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48 湘南医療大学保健医療学部看護学科 片山典子研究室内	045-821-0111	045-821-0116	jadict-office@umin.ac.jp	担当者	http://plaza.umin.ac.jp/~jaddicta/
21 日本運動器看護学会	吉田 澄恵	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-6824-9371	03-5227-8631	jsmn-post@bunken.co.jp s-yoshida@thcu.ac.jp		http://www.jsmn.jp
22 一般社団法人 日本家族看護学会	荒木 暁子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jarfn@mynavi.jp	北川 瑞季	https://jarfn.jp/
23 日本看護医療学会	池松 裕子	491-0938	愛知県一宮市日光灯6番地 修文大学看護学部内 「日本看護医療学会事務局宛」	0586-45-2101	0586-45-4410	info@jsnhc.org	東山	https://www.jsnhc.org/
24 一般社団法人 日本看護技術学会	角濱 春美	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F ㈱春恒社学会事業部	03-5291-6231	03-5291-2176	jsnas@shunkosha.com	角濱 春美	https://jsnas.jp/
25 日本看護教育学会	永野 光子	260-8672	千葉県千葉市中央区支鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 看護教育学専門領域気付	043-226-2397	043-226-2397	jasne_office@yahoo.co.jp	望月美知代	http://square.umin.ac.jp/~jasne/index.html
26 日本看護診断学会	佐藤 正美	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキイレビル ㈱グローバルエクスプレス・国際会議 センター内	03-3352-6223	03-3352-5421	jsnd@convention-access.com	安田 緑	http://jsnd.umin.jp/
27 日本看護福祉学会	生野 繁子	865-0062	熊本県玉名市富尾888番地 九州看護福祉大学看護福祉学部 社会福祉学科 吉岡久美研究室	0968-75-1891	0968-75-1891	kumish@kyushu-ns.ac.jp	吉岡 久美	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先					ホームページアドレス	
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail		宛先(担当者)
28 一般社団法人 日本看護倫理学会	前田 樹海	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-6824-9378	03-5227-8631	jnea-post@as.bunken. co.jp		http://jnea.net/index.html
29 日本看護歴史学会	田中 幸子	182-8570	東京都調布市国領町8-3-1 東京慈恵会医科大学医学部看護学科	03-3480-1151 内線2810	092-642-6710	satana@jikei.ac.jp	田中 幸子	http://plaza.umin.ac.jp/ -jahsn/
30 一般社団法人 日本災害看護学会	大野かおり	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 (株)カワレオ学会業務情報化センター内	03-5981-9824	03-5981-9852	g03jnsdn-mng@ ml.gakkai.ne.jp	竹下 清日	http://www.jsdn.gr.jp/
31 一般社団法人 日本在宅ケア学会	亀井 智子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jahc@mynavi.jp	北川 瑞季	http://www.jahhc.com/
32 日本手術看護学会	ミルズしげ子	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	03-3813-0485	03-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正行	http://www.jona.gr.jp/ index.html
33 日本新生児看護学会	内田美恵子	594-1101	大阪府和泉市室堂町840 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター看護部内 日本新生児看護学会事務局	080-4839-0071	0725-55-6701	uchida.micko@shitoku. ac.jp	宇藤 裕子	http://www.jann.gr.jp/
34 一般社団法人 日本腎不全看護学会	岡 美智代	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 (株)カワレオ学会業務情報化センター内	03-5981-9824	03-5981-9852	g045jann-mng@ ml.gakkai.ne.jp	鉦立 優作	http://ja-nn.jp/
35 日本生殖看護学会	上澤 悦子	144-8535	東京都大田区西蒲田5-23-22 東京工科大学医療保健学部看護学科内 日本生殖看護学会事務局			jsfnjimu@gmail.com	三上	https://jsfn.org/
36 日本赤十字看護学会	守田美奈子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	03-5485-5777	03-5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	鎌倉やよい	http://plaza.umin.ac.jp/ jrcsns/
37 一般社団法人 日本難病看護学会	秋山 智	156-8506	東京都世田谷区上北沢2-1-6 公益財団法人東京都医学総合研究所 難病ケア看護研究室	03-6834-2290	03-6834-2291	office@nambyokango.jp	牛久保美津子	https://nambyokango.jp/
38 一般社団法人 日本放射線看護学会	太田 勝正	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター	03-6824-9370	03-5227-8631	rnsj@kokusaibunken.jp	担当者	http://www.rnsj.jp/
39 日本母子看護学会	齋藤 益子	161-0034	東京都東京都新宿区上落合1-16-7 エヌケイビル5F 株式会社厚德社	03-5348-5018	03-5348-8021	jmica2@gmail.com	関根・松戸	http://nihonboshikango. kenkyuukai.jp/about/
40 日本慢性看護学会	本庄 恵子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内		03-3409-0589	jscicn-office@umin.ac.jp	黒江ゆり子	http://jscicn.com/
41 日本ルーラルナーシ ング学会	大湾 明美	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	0285-58-7512	0285-44-7257	sharu@jichi.ac.jp	春山 早苗	http://www.jasrun.org/
42 一般社団法人 日本老年看護学会	正木 治恵	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 株式会社ワールドプランニング内	03-5206-7431	03-5206-7757	office@rounenkango.com	江頭麻衣子	http://www.rounenkango. com/
43 北日本看護学会	塩飽 仁	990-9585	山形市飯田西2丁目2-2 山形大学医学部看護学科内			bureau@njans.net	古瀬みどり	http://www.njans.net
44 日本ニューロサイエ ンス看護学会	大久保暢子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学大学院 看護学研究科 大久保研究室内	03-3543-6391	03-5565-1626	nobu-okubo@slcn.ac.jp	大久保暢子	http://www.jann-2012.com
45 一般社団法人 日本フォレンジック 看護学会	加納 尚美	300-0394	茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2 茨城県立医療大学保健医療学部看護学 科内 日本フォレンジック看護学会			mail@jafn.jp	阿部	https://jafn.jp/
46 日本産業看護学会	河野 啓子	807-8555	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学講座内 日本産業看護学会事務局	093-691-7160	093-692-0259	jaohnadmin@mbx. health.uoeh-u.ac.jp	中谷 淳子	http://www.jaohn.com/
47 看護教育研究学会	森 千鶴	206-0033	東京都多摩市落合4-11 東京医療学院大学保健医療学部 看護学科 森千鶴研究室内	029-853-8062	029-853-8062	info@nihonkango.jp	藤森 京子	http://www.nihonkango.jp/
48 日本NP学会	福永ヒトミ	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-np@mynavi.jp	松井	https://www.js-np.jp/
49 一般社団法人 日本在宅看護学会	山田 雅子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学大学院看護学研究科	03-5550-2286		info@zaitakukango.com	小野若菜子	https://janhc.jp/

*学会連絡先等の修正、その他の変更がある場合は、JANA事務局 maf-jana@mynavi.jpに
ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

